

研究部会名 高輝度 LED 研究部会 (アスタキサンチン)

研究・生産の現状	ヘマト アスタ生産の課題	その他
<p>1、 研究について</p> <p>1) ヘマト研究 (日本での専門)</p> <p>(1) 企業: 富士化学 ハワイのバイオリアル社 荏原実業 中国昆明工場</p> <p>(2) 大学: 広島大学大学院先端物質化学研究科・神戸大 (LED 研究者): 加藤教授</p> <p>2、 アスタ生産について</p> <p>現在世界で生産している或いは近々生産を予定している企業</p> <p>1) 富士化学提携企業</p> <p>(1) BaioReal 社 (ハワイで太陽光での設置のドーム式 培養装置でヘマトを培養) 乾物にして日本に 超臨界 CO<sub>2</sub> 抽出でアスタ 各種濃度に調整・販売</p> <p>(2) AstaReal 社 (スエーデンで電力利用の培養槽) ハワイと同様日本に、或いは現地で販売。</p> <p>2) CyanotechCorpo (ハワイ)</p> <p>3) Algatechnologies (イスラエル)</p> <p>4) ParryNautracertial (インド)</p> <p>5) MetaPanacertical (ハワイ)</p> <p>6) 昆明白鷗微藻技術有限公司 (中国・・・日本の荏原実業の合併企業)</p> <p>7) ケイアイ化成</p> <p>8) ヤマハ</p>	<p>1、生育が遅く、菌体収量低い 富士化学の話: 4 週間?</p> <p>2、アスタ含量が低い</p> <p>3、太陽光方式: 培養槽での雑菌</p> <p>4、ケイアイ化成は酵母からのタンク培養: 現在は 0,7%/dry 含量 ・フリー体: 生理作用についての研究が進んでいない</p>	<p>1、現状の市場はそれほど大きくない・・・アスタ素材で数億円</p> <p>2、市場の拡大</p> <p>1) 世界的な天然物回帰の動き FDA、欧州等</p> <p>2) 日本での機能の解明・・・健食拡大</p> <p>3) 餌料添加物としての合成アスタへの問題</p>

	高輝度 LED によるアスタ高密度生産について（静大）可能性	静大での状況	その他
	<p>1、 現状：神戸大・・・LED で生産量が上がったとの報告あり</p> <p>2、 広島大：生産力の高い株の入手可能培養条件の種々のノウハウ入手可能</p>	<p>1、ヘマト培養の現状            フラスコによる培養実験中            条件の把握等            現在かなりの速度で培養できている。            大雑把な生育条件はつかめた            成分・収量等の分析はこれから</p> <p>2、今後の取り組み            ヘマトの大量培養と成分蓄積            (1) オートクレーブの培養            新研究室での50L培養槽            で実施            (2) 亜臨界抽出にかける            (3) 成分分析            (4) 種々の条件での検討            LED、栄養、他</p> <p>3、目標            暗所培養の研究・・・ヘマト新株            の入手              省エネ</p>	<p>大規模培養槽での生育試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 培養槽確保</li> <li>・ 生育条件確立</li> <li>・ 乾燥・抽出試験</li> </ul>